



星川だより



熊谷空襲を忘れない市民の会 会報

ウクライナ戦争はいつ終わる？

加藤一夫

ロシアとウクライナが戦争を始めてから11か月が過ぎた。すぐには終わるそうもなく2023年も続きそうだ。数年続くという論者もいる。しかし、始まった戦争は、いつかは終わる。昨年末、私は「熊谷平和講座」(第47回)で「ウクライナ戦争の終わり方」をテーマにした。以下はその要旨である。

●戦争はなぜ始まった

戦争は、昨年2月24日に始まった。ロシアの独裁者プーチンによる「特別軍事行動」で、彼はウクライナとロシアは同一民族の「兄弟国」だとして統合を目指しウクライナに侵攻した。独立主権国家に踏み込むのは侵略であり、その点から私たちは市民グループも反対を表明した。しかし、視点を変えると違う面も見えてくる、実は、戦争はすでに2009〜14年の「マイダン革命」時に始まっていた。これはウクライナの民主化革命といわれていたが、当時の

アメリカ副大統領バイデン(現大統領)が、ネオコンなどとともにロシアに圧力をかけていた。プーチンはこれに對抗してクリミア半島をロシアに併合し、東部2州は独立を目指し内戦状態になった。

戦争はこの時から続いていた。今度の戦争はある意味でアメリカ(NATO)とロシアの代理戦争の性格を持っている。NATOは、冷戦後一貫して東方拡大を図り、ロシアの弱体化を狙っていたと言える。日本の大方のメディアや政府系論者のような見方のアメリカ善・ロシア悪では戦争の本質に迫ることはできない。

●戦争の性格

この戦争は多様な面を持っている。単に2国間の戦争ではない。グローバルな戦争で、ウクライナの背後に西ヨーロッパとアメリカ(NATO)がいて、一方でユーラシア(東欧)がいてその点ですでにグローバルなヨーロッパ大戦といった側面もある。ただ、アジア・アフリカ諸国は一步引いている。アジアではアメリカの言いなりになっている日本だけがNATOと一体となつて行動し、ウクライナに軍事援助すらしている。また、この戦争は宇宙空間にまで戦

域を拡大している。さらに戦争は、軍隊、民間組織・団体を含んだハイブリッド戦争にもなっている。SNS、IT、ドローン、その他、あらゆる電子技術も活用されている。核兵器(戦術核兵器)が使用される恐れもある。プーチンは事あるごとに核の使用をほめかしている。

●戦争はいつ終わる？

現在、両国はがつぷり組んでいてすぐに戦闘が終わる兆しはない。ロシアはウクライナのライフラインにミサイルを撃ち込み人々の生活を破壊している。ウクライナもアメリカの武器援助で反撃し、一部領土を奪還している。簡単に終わるそうにないように見える。しかし、私は意外に早く停戦するのではないかと考えている。理由は戦争疲れである。双方、人々を動員して戦っているように見えるが、ウクライナの人々の約半数は国外に避難しているし、ロシアも富裕層の大部分が国外逃亡し、一般の人々の不満も拡大している。プーチンはメディアを統制し、力で反対の声を抑え込んでいるがほころびも出てきている。戦争両国、国際社会、国際機関、国際NGOなどでは水面下で戦争終



結にむけて折衝が続いている。意外に早く停戦(一時的かもしれない)が実現するかもしれない。私は、どんな形であれ戦争は止めてほしいと思う。今回の戦争の影響で地球環境の破壊が進み、食糧危機やエネルギー危機が拡大、3年続いているコロナの影響とともに深刻な経済危機で世界の人々の暮らしが悪化している。日本でも政治や社会がおかしくなり、人心も悪化し、これを利用して戦争の拡大を望む連中も増えてきている。安倍政治を継承し軍事費増大をもくろむ日本の岸田政権はその典型だろう。2023年は平和な年であってほしい。

今年もよろしく願います。

年末に放送された徹子の部屋で、タモリが黒柳徹子から「来年はどんな年になりますかね？」と聞かれ、「新しい戦前になるんじゃないですかね」と答えたことがSNSで話題になっている。また、年が明けて東京新聞の元日特集で、吉永小百合が「戦後に生き戦後へつなぐ」として「大変な問題をどんどん決めていこうとした動き」に警鐘を鳴らしている。私たち熊谷空襲を忘れない市民の会は、熊谷空襲を後世に繋いでいくことにより二度と戦争を起こさない日本であり続けることを訴え行動している。タモリも吉永小百合も1945年生まれの77歳だ。当会の代表米田主美も同じ歳だ。誕生日を見ると、吉永3月13日で東京大空襲の直後東京で生まれ、米田は熊谷空襲の日生まれている。タモリは8月22日敗戦の混乱の中福岡で生まれた。

田中角栄に「戦争を知っている世代が社会の中核にある間はいいが、戦争を知らない

世代ばかりになると日本は怖いことになる」という警句がある。今まさに、戦争の記憶が薄れ、ボンボン育ちが浅慮な政治を行っているのではないか。怖い。怖い。

敗戦から77年、決して戦前にしてはならないためにも、堂々と戦後を生き、戦後をつなぎ続けよう。タモリの発言が杞憂になることを願うばかりだ。

昨年の大きな事件と言えば、安倍元首相の暗殺が挙げられる。暗殺自体は暴挙であり決して正当化できないのだが、暗殺により日本を覆っていた得体のしれない妖気に一筋の風が吹き、様々な不都合な事実が露わになってきた。



① 旧統一教会問題

霊感商法に合同結婚式、莫大な金が日本の信者から搾り取られ韓国に送金されていた。そしてなんと安倍氏は、彼らの広告塔になっていたので。さらに自民党を中心とする地方議員から国会議員まで、旧統一教会と持ちつ持たれつの関係が明るみに出たのだ。カルトとカルトに汚染された政治家、彼らが政治を行っているのだ。政治のレベルがあまりにもお粗末ではないか。

② 東京オリンピック問題

神宮外苑を再開発しようとする利権構造から生まれたのが東京五輪だそう。コロナで1年延期になったが、招致活動から今日まで、スポーツを出汁に、嘘にまみれ、金にまみれ、汚職と談合の祭典だったことが明らかになっている。

- ① 招致活動2億円賄賂疑惑 (元JOC会長の竹田氏はフランス検察から出頭を命じられたまま)
- ② 安倍元首相の福島原発アンダーコントロール発言の欺瞞 (いまだに故郷に帰れない大勢の人々、溶け落ちた核燃料はむき出しのまま)
- ③ コンパクトな五輪、予算は7000億円台の欺瞞 (実際は3億円以上と言われている)
- ④ 新国立競技場を巡る混乱や建築費の増大 (五輪後の維持費等も無視)
- ⑤ 元電通高橋氏を中心とする贈収賄事件 (電通の電通による電通のためのオリンピックと揶揄されている)
- ⑥ 談合事件 (現在捜査中)、その他、エンブレムの盗用、ボランテニア搾取、なにより米メディア優先の酷暑開催問題など。これが復興五輪の正体なのだ。



③ 原発問題

岸田首相は、今なお福島原

発の廃炉処理もままならぬ状況下で、突然原発政策の大転換を表明した。① 廃炉原発の建て替え② 次世代原発の開発③ 運転期間の延長などだ。原子力村の暗躍が想像できるが、経産省は、国が減んでも原発を稼働させ続けたいのだろうか。

④ 軍事費問題

敵基地攻撃能力を反撃能力と言い換え、防衛費を43兆円に急増させる表明など、岸田首相は、防衛費増強に前のめりだ。ところで、安倍政権がアメリカから爆買した兵器ローンの支払いを含めると、なんと60兆円になるそう。日本はいつから軍事大国になったのか。



～ カンパのお願い ～

熊谷空襲を忘れない市民の会では、広く活動費用を募るため口座を開設しました。ご協力のほどよろしくお願い致します。なお、会計報告はこの紙面により行います。

ゆうちょ銀行
口座記号・記号: 00100-7-265321
加入者名: 熊谷空襲を忘れない市民の会
口座名称カナ: クマガヤクウシュウワラスレナイ シミンノカイ
他行からの振り込みの場合は
店名 (店番): 〇一九店 (019)
預金種目 : 当座
口座番号 : 0265321

会計報告 (2022/10/18~2023/1/15)
収入: 15,600 円
支出: 24,904 円
残高: 78,189 円

編集委員 吉田庄一、小川美穂子、米田主美
連絡先 吉田庄一 (090-4957-9181)
メール imajn241@gmail.com
HP http://www.peace-kumagaya.org/

